

スキル情報

- **主に扱うプログラミング言語** Python,TypeScript,Rust
- ● 興味のある分野 フロントエンド開発、フルスタック開発
- **3 チームでの開発経験** -ハッカソンや授業内でチーム内の開発活動をマネジメントした経験アリ
- **禱 研究している内容** WebAssembly(Rust),Reactで高速描画WebAR開発
- **! 課外プロジェクトでの活動** 「Tourism」という学内非公式プロジェクトで後輩の成果物開発支援
- **3** プログラミング以外のスキル Canvaでのスライド作成、Aviutilでの動画作成

プログラミング言語の選定について

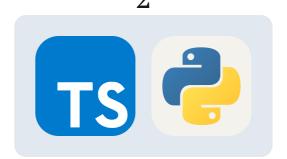
主な理由

1. 型安全:型定義が厳密に定義できることによる安全性が見込める

2. 書いた後の見やすさ: 言語について詳しくなくても読みやすいか (学習コストが低い)

3. **その言語でのみできることがあるか**: 開発したいものがその言語だからこそできるものであるかどうか

TS





興味のある分野(フロントエンド開発)について学んできたこと

React, Vue. js, Solid. js

- JSX構文
- 特定の機能を持ったHooksという関数

Next.js

先述した学習に加え、

- App Router , Route Handler
- Server Action
- (Client/Server) Component

Firebase, Supabase, Convex

- データベース機能
- OAuthの活用

microCMS, Newt

- コンテンツのスキーマ登録
- 保存したコンテンツをプログラムで取得
- 上記サービスを使ったブログ開発

チームでの開発経験

ハッカソンでの開発経験

DMM協賛のハッカソンに同じ学年のメンバー3人と一緒に参加し、 学外の技術イベントの情報を取得しポップアップ表示するChrome拡張機能を開発した。

- フロントエンド (表示部分作成) (TypeScript) : 僕
- バックエンド(API作成)(Python):メンバー3人

という分担になった。

工夫

- 開発円滑化のため、Plasmoという拡張機能開発フレームワークを用いた
- 普段はTailwindCSSを使っているが、表示するサイトのスタイル設定との衝突を避けるためにCSSファイルにCSSを記述した

研究している内容の詳細

概要

WebAssembly(Rust),Reactで高速描画WebAR開発

開発言語

Rust, Web Assembly, Type Script

使用ライブラリ

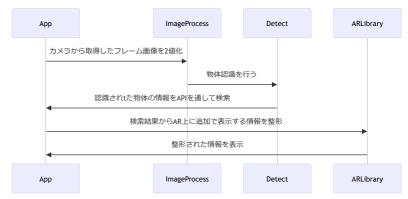
■ DOM出力:Leptos

■ 画像処理:Photon

■ AIモデル活用:ORT

■ ARコンテンツ操作:未定(A-Frame,AR.js,Mind-AR)

アプリの動作の概要



研究を始めた理由

- AR技術というのは今後、人々がより安全にデバイスを用いて 生活するために必要になる技術であると考えたため。
- 現在販売されているARデバイスは非常に高価であるため、 低コストで扱えるARアプリ実行環境としてWebの仕組みを 扱いたいと考えたため。

プログラミング以外のスキルについての詳細

Canvaを扱ったスライド作成

授業やハッカソンでの発表において、スライドを作成する際、 Canvaを扱ってスライドを作っています。

What's DevContainer?

Aviutilを扱った動画作成

中学生の頃に動画投稿をしていたことがあり、現在も 動画を作ることができます。近頃は**Remotion**という npmパッケージを用いてプログラムで動画を作成していますが、 クロマキー合成や字幕を入れるなど、情報をフォームから 取得しなければならないインタラクティブなものではないものや、 特にオシャレな動きをつけたい動画は**Aviutil**で作っています

課外プロジェクトでの活動概要

後輩の成果物開発支援

■ コンテンツを作成する上でのライブラリ・フレームワークの紹介 ■ (日常/学生)生活に役立つWebアプリケーション開発

後輩が作成したいコンテンツを開発する上で 役に立つライブラリや、フレームワークを、 後輩が知っている言語や作成するコンテンツの特徴に合わせ、 紹介を行う

■ コンテンツに必要な処理の要件定義支援

作成したいコンテンツの概要を聞き取り、 **基本的な機能についてのみ**要件定義の支援を行う。それ以降 の機能についてはヒントとなるアドバイスのみを与える

上記の活動を通し

後輩自身の論理的思考力を養うことをコンテンツ開発を通して 促進する。

Webアプリケーション開発

学内非公認プロジェクトとして存在しているため、 先輩方とは違った道で公認プロジェクト化を目指し、 新しいプロジェクト内の活動内容として、 日常生活や、学生生活の中で活用できる Webアプリケーション開発を行っている